

桜蔭俳話会 九月句会(第三六八回)

平成三十年九月二十三日(日)

〔推薦句〕

立秋や思考回路の動き出す

明美

〔原句〕裏切りし夫の墓前に萩手向け 眞壽

〔理由〕「夫」や「妻」はなるべく使わない。

墓前と手向けは重なる。

〔添削案〕裏切りし人の墓前や萩の花

〔原句〕爽やかや削り直せし桐箆笥

幸

〔理由〕季語の内容は説明しない。

〔添削案〕底紅や削り直しの桐箆笥

〔原句〕年寄りの時間稼ぎや大根蒔く 眞壽

〔理由〕着眼点と俳諧味は良いが、川柳との境界には注意する。「年寄りの時間稼ぎ」は少しきついか。

〔添削案〕永らへし時の余禄や大根蒔く

〔原句〕台風の大き目玉に籠城す

明美

〔理由〕一句一章の句は難しい。「に」はなるべく使わない。

〔添削案〕台風の大き目玉や籠城す

〔共感句〕一人居の快気祝ひや新豆腐 かほる

〔原句〕いつまでも「戦後」がよろし八月尽

友子

〔理由〕二句一章にして、緊張と弛緩の関係にする。

前が重いので後ろは軽いものとする。

〔添削案〕いつまでも「戦後」がよろし猫じやらし

〔原句〕二百十日一指のえぐる魚の腸 才美

〔理由〕狙いは数字俳句かも知れないが、二百十日が効いていない。

〔添削案〕青北風や一指の抉る魚の腸

〔原句〕入院日離れては寄る秋の蝶

才美

〔理由〕「入院」と「蝶」は明確に切る。

〔添削案〕入院や離れては寄る秋の蝶

〔共感句〕曼珠沙華卒寿の好きなサーロイン

才美

〔共感句〕傷つきし土もふる里新酒 才美

〔原句〕ジェットコースターの上りは徐々に鯛

雲

友子

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕鯛雲ジェットコースター上りけり

〔共感句〕隠れたる子らの声あり花芒 友子

〔原句〕ぽとり落つこれも人の世沙羅の花 幸

〔理由〕「ぽとり落つ」では季語の説明。

〔添削案〕見渡せばこれも人の世沙羅の花

〔原句〕屑金魚大きな命掬いけり 幸

〔理由〕命には大小はない。

〔添削案〕屑金魚命ひとつを掬ひけり

〔共感句〕この店はまた台替り秋の暮 眞壽

〔共感句〕能面の裏の暗闇秋の声 才美

〔共感句〕こぼれ萩父の書棚の俳句帳 友子

〔原句〕秋の灯の点らぬ大地地震来たる 友子

〔理由〕「灯」と「点る」の重なり。

〔添削案〕秋の灯の消えし大地や大地震

〔共感句〕爽やかや泥の球児の泣き笑ひ

友子

〔原句〕芋茎のあく染む指や夕餉膳 ヤエ子

〔理由〕膳は料理と関連する。

〔添削案〕芋茎のあく染む指や水暮るる

〔共感句〕秋徽雨看護の日記読み返す かほる

〔原句〕満月の潮位滑りし渡船かな 明美

〔理由〕語順の整理。意味の明確化。

〔添削案〕満月の潮位渡船の滑り出す

〔原句〕海底の断層しづか秋気澄む 明美

〔理由〕言葉の選択

〔添削案〕海底に眠る断層秋気澄む

〔共感句〕引退の言葉爽やか野球帽 明美

〔原句〕指すつぼり隠れど旨し衣 ヤエ子

〔理由〕意味が解りづらい。

〔添削案〕ぐい飲みの方のつるりと衣被

〔原句〕横笛の色なき風となりて果つ 才美

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕笛吹けば色なき風なりにけり

〔原句〕父作の神棚古し秋祭 かほる

〔理由〕父親の作であれば「古し」は余分。

〔添削案〕神棚は父の手作り秋祭

〔原句〕新調の背広爽やか出社する 眞壽

〔理由〕語順の整理。

〔添削案〕爽やかや出社の背広新調す

〔原句〕こほろぎの玄関出ず雨の夜 かほる

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕玄関に籠る蟋蟀雨の音

〔原句〕祝宴はうれしさ半分敬老日 友子

〔理由〕五七五の定型は出来るだけ守ること。

〔添削案〕祝宴は嬉しさ半ば敬老日

〔原句〕秋夕焼横綱敗れ太鼓鳴る 直子

〔理由〕言葉の整理。相撲取りと太鼓は付きもの。

〔添削案〕秋夕焼横綱終に十勝負

〔原句〕秋出水災害受けし酒を買う 眞壽

〔理由〕言葉の重複。秋出水と災害。

〔添削案〕秋出水真つ先に買ふ酒の罐

〔原句〕秋風や操られては笑む傀儡 才美

〔理由〕言葉の整理。傀儡は元々操るもの。

〔添削案〕秋の風笑まふ傀儡を過ぎりけり

〔原句〕金木犀香りの見えて曲がる路地 才美

〔理由〕香りが見えるとの句意の明確化。

〔添削案〕路地深く金木犀の香りの輪

〔原句〕長き夜やストレス無けど眠気来ず

〔理由〕俳句の簡潔性。「夜長」に「眠る」は直子

言わない。

〔添削案〕ストレスのなきがストレス夜長かな

〔原句〕流れ星近き火星や東空 直子

〔理由〕俳句の簡潔性。流星に空は、

ダイレクトには言わない。

〔添削案〕流れ星名前なきまま消えにけり

〔原句〕青柿に止まる鴉の吊り目かな 幸

〔理由〕季語には季節あり。

〔添削案〕渋柿にとまる鴉の吊り目かな

〔原句〕爽やかや赤子の泣きの不意に止む ヤエ子

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕爽やかや赤子の頬の片えくぼ

〔原句〕いかに死ぬか学ぶ看取りや水の秋 友子

〔理由〕難しいテーマへの挑戦。看取りは過去を振り返る貴重な時間。学ぶまでは不要か。

〔添削案〕人間いかに生くべきや水の秋

〔共感句〕一粒を含みて鳴らすマスカット 邦子

〔原句〕黄落や黄の絨緞の燥ぐ子 ヤエ子

〔理由〕絨緞は冬の季語。

〔添削案〕黄落や躁げる吾子は雲の上

〔原句〕空の青行く雲に見る今日の秋 邦子
〔理由〕今日の秋は今朝の秋。

〔添削案〕青空の行雲一つ今朝の秋

〔理由〕空港の孤島となりぬ台風禍 友子

〔理由〕言葉の選択。

〔添削案〕空港は海に吞まれし台風来

〔原句〕秋の宵ゴーヤチャンプルほろ苦し 直子

直子

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕泡盛にゴーヤチャンプル夜長かな

〔原句〕秋の虫去り来ぬ季節強く鳴き 邦子

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕深まりし季節の彩や虫時雨

〔原句〕爽やかに「じゃあね」と別かる山上駅 才美

才美

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕爽やかに別れは「じゃあね」山の駅

〔原句〕繕いのベストに一針夜の秋 幸

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕繕ひのベストの針や夜の秋

〔原句〕骨無きがごとく柔らかか赤子足 ヤエ子

〔理由〕あまりに可愛いくて季語を失念。

〔添削案〕柔らかな赤子の眠り月今宵

〔原句〕年を経て誰れのあの世も爽やかに 直子

直子

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕爽やかに過ごせる「あの世」あるら

しく

〔原句〕約束の烏瓜来し即絵筆 ヤエ子

〔理由〕言葉の選択。

〔添削案〕約束の烏瓜来し手に絵筆

〔原句〕爽涼やしばし止むる坂の上 かほる

〔理由〕「しばし」は不要か。

〔添削案〕爽涼や町を見下ろす坂の上

〔原句〕爺婆が愛の巢作る彼岸花 眞壽

〔理由〕高齢化の副産物か。

〔添削案〕永らへて愛の巢一つ乱れ萩

〔原句〕天地創造歌ひきる爽なり かほる

〔理由〕曲名には括弧を付ける。

〔添削案〕爽やかや「天地創造」歌ひきる

〔原句〕外に出てほほ触る風や今朝の秋

ヤエ子

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕ほほ触るる風に聴きたる今朝の秋

〔原句〕街路樹の大きなうねり二百十日 直子

〔理由〕言葉の整理。

〔添削案〕街路樹のうねり大きく台風圏

(文責 代表 増田守)

(欠席投句 古野明美、平野邦子、京林眞壽)